

予算決算委員会総務文教分科会会議記録
(補正予算審査)

1. 日 時	令和4年8月10日(水) 11時30分開議 令和4年8月10日(水) 12時30分散会
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	向井千尋座長、原田豊彦副座長、足立義則委員、 安井博幸委員、隅田雅春委員、小嶋政行議長
4. 欠席議員	なし
5. 参考人	なし
6. 傍聴人	なし
7. 会議に付した事件	・議案第41号 令和4年度丹波篠山市一般会計補正予算(第7号)
8. 議事の経過	<p>向井座長 挨拶</p> <p>向井座長 開議宣告</p> <p>11:30 開議</p> <p>■行政経営部</p> <p>日程第1 議案第41号 令和4年度丹波篠山市一般会計補正予算(第7号)</p> <p>【主な説明】 行政経営部財政課より説明</p> <p>【主な質疑】 隅田委員 幼稚園部分と子ども園部分とが分けてあるんですが、どの基準で分けてあるのか、遊戯室などもどういった基準で分けてあるのかの説明をお願いしたい。</p>

行政経営部 まず、幼稚園部分と保育園部分の分け方についてという御質問であったと思います。詳細は、後ほど説明があるかもしれませんが、学校施設環境改善交付金という補助金を算定するに当たりまして、それぞれ面積の基準で割合を求めて、その面積の基準にもとづいた割合が24.2%、こちらが幼稚園部分になりまして、残りの全てが保育園部分ということになりますので、まず国庫補助金の枠組みの中で、算定をして、幼稚園部分を求めて、それ以外が保育園部分ということになります。

足立委員 今回は予算の設計業務、測量業務の予算上程ですけども、先ほど本会議で出てましたように、イエローゾーンの話も出てましたけど、財政課としてはそれほど影響がないという説明でしたが、今の説明でも0.1とかいうことですけども、やっぱり財調が減ったり、それから収支がやはり改善はしない。悪化もしないかもしれないが、別によくはならないわけですから、なるべく支出としては抑えるような形で、設計業務に携わっていただいたり、これから建設関係をしていかなければならないと思います。イエローゾーンの話しがでてましたが、道を挟んだ向かいの山からの土砂に対するイエローゾーンという認識でいいんですか、先ほど擁壁などの話も出てましたけど、そこについては、今、安井議員とも話しをしておったんですけど、消防署の出張所とかデイサービスセンターとかがあるこの地図でいうところの右下の部分の山から土砂に対する、イエローゾーンという認識でいいんですか。

(執行部よりそのとおりの発言あり。)

足立委員 道を挟んでるのでそんなところに防護壁というか、予算を組んでいたら、莫大な費用がかかるので、そういうところはもうなしということで、その建てる部分については、検討いただいたらいいと思いますけども、イエローゾーンについての防護壁を検討するというようなことはしてもらったら困るんじゃないかと思います。私個人的にはもう、土砂災害警戒区域をイエローゾーンという先ほど説明がありましたけど、そういう認識で、もうそこへできることのお金は財源的に無いというふうに私は認識しますので、そのところをもう一度ここで部長、確認の上で、答弁いただきたいと思います。

行政経営部	<p>御指摘のとおり今回につきましてはレッドゾーン、イエローゾーンからの移転ということも大きな目標ですので、当然おっしゃったとおり、より安全なところへということが主眼になっています。やむを得ず、今回選定された土地については、イエローゾーンがかかっているということですが、ただイエローゾーンについては、建築規制とか防護柵の設置とかいうのは義務づけられていませんので、今おっしゃったとおり、ソフト面での対応でいいのか、上のほうには、福祉センターとか消防署の出張所もございますので、全体的にどうするかについては、今後の課題だと思えますけども、保育園のみで考えるのはなかなか難しい問題だと思います。</p>
足立委員	<p>今回の補正に直接関係あるかどうかわかりませんが、事業費総額のところ見てますと駐車場の確保とかいろいろありますけども、通常、車がそんなにとまっていて、多くの方が利用している駐車場という認識はしておりません。一時的にイベントで車が多いときに使ってるのではないかなと思いますので、それは代替地として一時的に確保するだけのことであって、常備、整備するような駐車場としては必要ないというふうに私は認識をいたしておりますので、できるだけ財源のかからないような形でやっていただかないと、国庫補助も少ない事業費になってますので、持ち出しもかなり、私としては、大きな事業だと思うので、その再生会議が通ったからといって、別にうちの総務委員会を通ったわけでもございませぬので、できるだけ厳しい目で見えていただいて、将来安定的な財政が運営出来ますように、削れるところは削る、いう形をとって取りかかっていたいただきたいというふうに思いますが、部長何かありましたらお願いします。</p>
行政経営部	<p>御指摘のとおりだと思いますので、財源については効率的かつ安くて効率の良い形の執行が必要だと思いますので、それにつきまして今後の執行の中で留意させていただきたいと思えます。</p>
安井委員	<p>今足立委員が言われましたように、特に駐車場の面は、以前は短期間で陶器まつりとかされてたんですけど今は、長期間に分散型になってきますので、駐車場のニーズっていうのが減ってると思います。実際ここに今これだけの駐車場があるからこれだけの駐車場をまた新たなところに確保しなきゃいけないとかそういう考えはもういいんじゃないかと思</p>

います。やはりこども園をつくるのに最小限のコストというのをやっぱり考えてやっていただかないと、この地図を見てもより危険なところに診療所とか消防の出張所とか、デイサービスがあるわけですから、そこと比べれば、道路を挟んでる分だけでも安全だと僕は思いますので、防災は以前と比べればはるかによくなってる場所になってるわけですから、余りそちらにコストをかけ過ぎないようにぜひお願いしたい。それと規模的には、多紀こども園と同じぐらいの規模だと思うんですけども、味間の子供園と比べれば、園児1人当たりになれば非常に単価が高くなってるんです。

それだけふんだんに木材が使われて、立派な建物だとは思いますが、やはりぜいたく過ぎないように、財政課の面から厳しく、見ていていただきたいと思いますので、その辺りについてのお考えがありましたら、お聞かせください。

行政経営部 足立議員の発言と同様だと思いますけども、より効率的な予算執行ということを考えなければならないと思いますので、それにつきましては、今後の執行段階で、十分留意させていただきたいと思います。

向井座長 こども園化というのは、大きな流れで、今回もその中だと思うんですけども、大きな流れで見たら、こども園化は、近隣の市町もそうなんですけれども、民営化していくという流れが一つあって、民営化していく中で国が公立のこども園よりも民営化したこども園のほうに、国がたくさん支援するというような流れがあるんですけれども、丹波篠山市の場合は、今までの歴史もありますし、これからも多分その民営で、少子化が進んでいく中で、民営でこども園をやろうという事業者さんがおられるようなことはすごく難しいんじゃないかと思います。

多分これからも、行政としてその公的なところが、こども園の運営をしていかなければならないということになると思うんですけども、国からの補助率が、余りにも違うということで、何か良い方法は無いものでしょうか。

行政経営部 民営化につきましては一つの方法と考えます。ただ民営化をやるとなるともう少し長い期間の中で、将来的な計画を持たないと民間の方の資本も導入出来ないと思います。渡辺議員から話がありましたとおり、将来計画があって、そこに民間を入れるのか入れないのかという議論があれ

ば、おっしゃった話も可能性としてはあるのかなと思います。市内では今民間でしたら、富山保育園の1事業者さんがございます。ただ可能性としてはゼロではないかなと思いますので、それについては今後の課題ということで答弁させていただきたいと思います。

■こども未来部

日程第1 議案第41号 令和4年度丹波篠山市一般会計補正予算(第7号)

【主な説明】

こども未来部保育教育課より説明

【主な質疑】

隅田委員 先ほど財政課にもお聞きしたんですがこの幼稚園部分と保育園部分、これは国庫補助の面積で割り振ってあるということですが、これはもう、この24.3と75.7というのは、これは決まっておる数字ということでしょうか。

こども未来部 先ほど財政課のほうから説明がございましたように、まず幼稚園部分の補助対象金額を計上した上で、残りの部分が保育所部分というふうなことになります。幼稚園部分につきましては、学校施設環境改善交付金という国庫補助金がありますが、その枠組みの中で、補助対象金額を算定いたします。算定の基礎に当たりましては、補助対象面積、または学級数を用い補助対象となる面積掛ける国の補助単価で補助対象金額がでます。それが全体事業費の中で、どのぐらい割合を占めるかという部分で、今回の積算では幼稚園部分24.3%ということになっております。これが、今後設計等が進みまして事業費が変わっていきますと、その中に占める幼稚園部分の割合というものが変わってきますので、このパーセントについては、今後変わってくる可能性がございます。

隅田委員 基本的には、この認定こども園0歳から5歳までで4歳5歳が幼稚園とっておるんですが、4歳5歳の人数の確定と、保育園部分の人数の確定は、ちょっと違って、幼稚園部分であればその小学校区、何らかの人数で、5年先ぐらいまでは読めると思うんですが、こども園部分は、ち

よっと流動性があると思ったりするんですが、まず幼稚園部分の予算を決めてその、保育園部分の人数というのは、計算の中にそれほど入ってこないという認識なんですか。

こども未来部 厳密に幼稚園部分が何人、保育所部分が何人、その割合によって決めるというよりは、国のほうも簡略化しておりまして、幼稚園部分の計算に当たっては、大きな部分としては学級数が影響します。国でいう学級数というと、3歳児からが、幼児教育の年齢ということで、国のほうでは考えておりますので、3～5歳児の学級数、3学級ということになるんですけれども、それであれば、補助対象がどのぐらいかというふうなところでの、ある程度簡略化された計算式で算出をすることになっております。

安井委員 3歳から5歳が幼稚園の部分だと言われたけど、我が市では、4歳5歳が幼稚園という感覚があって、将来的には、3歳から5歳が幼稚園というふうに、我が市の教育行政も変わっていくというふうにとらえていいんですか。

こども未来部 先ほど国のほうでは3歳児からということで申し上げましたけれども、それは必ずそうしないといけないというものではございません。丹波篠山市の状況におきまして、御承知いただいておりますとおり幼稚園については、公立幼稚園のみとなっております。4、5歳児の2年保育といった形となっております。これを3歳児からの3年保育ということにしていこうとした場合に、まず施設的な面での整備が必要になってきます。保育室数はどの幼稚園も保育室が、4、5歳児にそれぞれ1部屋ずつと遊戯室という構成となっておりますので、3歳児もお預かりをするとなるともう1部屋増築ということで確保が必要になってきます。またその分の職員の確保も必要ということになってまいりますので、直ちに3歳児の保育をとるところは、幼稚園では難しいというところがございます。また全国的に見ましても、3年保育3歳児の保育をしておりますのは、私立がほとんどとなっております。

やはり公立の幼稚園でやっているところは、県下の状況も調べましたけれども、本当にごく僅かという状況になっておりまして、恐らく他市においても同様の事情なのではないかなというふうに想像いたしております。現状としてはそういった形になっております。

安井委員 説明ありがとうございました。よく状況がわかりました。
我が市の公立のこども園の場合ですと、これからも、4、5歳の2年間を幼児教育という形でいくと理解しました。こども園化すると0から3歳児までは、市内であればどこから来てもいいわけですね。それで4歳5歳になると、その今田小学校区の子じゃないと駄目っていうことになると思うんですけども、ただ、親側からすれば、例えば、0歳から3歳児までと5歳児と両方の子供を預かってもらって、お世話になる場合ですと、小学校区の縛りというのをもうちょっと緩和なりしていただいたほうが、保護者にとっては、便利になるんじゃないかと思うんですが部長見解はどうですか。

こども未来部 安井議員が言われたことはごもつともなことでと思いますし、今田地区の在り方検討会の中でもそういう話は出たことがあります。ただ、1度にそういうことをやってしまうと、幼稚園だけで終わるというものではなく、小学校へ上がるという接続の関係がありますので、その辺は慎重にいかねばならないなというふうに私は考えております。ただ市内全域に人口が、まんべんなくあればいいんですけど、どうしても一部地域に偏っていたり、少ない地域があったりということがありますので、安井議員が言われたことは、課題なのかなというふうに思いますので今後、どういう段階で検討していくかわかりませんが、特に学校教育関係の部分との接続部分ということもありますので、十分教育委員会内部でも検討していきたいというふうに思います。

安井委員 ぜひ長期的な施設整備等も含めて、将来の統廃合というようなことも、視野の片隅に入れて、将来人口が減っていったら、どういうふうにして、いかなければいけないかという長期計画をもとに、施設を整備していかないと、後手後手に回るような感じを受けてしまうので、保護者のニーズに合った視点から整備されていけば、新しく出来た施設が、保護者に喜ばれて、ここへ来たい、それがまた、移住のきっかけになればいいなと思いますので、その辺りも含めて、考えてやっていただきたいと思います。

足立委員 今日の定例日以外の開催ということで本日本会議をやらせていただいた状況です。これについては今日、追加資料であるスケジュールに基づい

てやっておられるというふうに思っております。再来年6年4月1日の供用開始が本日、定例日以外に本会議が開催されたというところが生きてこなければならぬと思いますが、過去にもあったと思いますけども、そういう形で取り組ませていただいても、いろんな諸般の事情で、開園が遅れたことも事実ありましたので、今日から進んでいっても、後半でいろんなことが起こってきますから、部長もこれから先ずっと市役所におられるわけではないと思いますので、ちゃんと引継ぎとか、契約した相手方とか、そのところで色々な問題もあると思いますけども、外的要因ではなくて、内部ではこの6年4月1日の供用開始、これを目途に頑張るんだというふうなことは、ずっと共通認識で持っていたいただかないと、過去に実際、遅れたことがありましたので、そうならないようにしていただきたいので、心意気ぐらいは聞いておきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

こども未来部 今田こども園につきましてもできれば、私としては、何とか6月議会に上程をしたかったわけではありますが、どうしても地元調整があり、この時期になったわけですが早く決着ができたほうとは思いますが、議会の最終日に上程出来ずに、開園日の設定をする中で、どうしても全体スケジュールを見る中で出来なかったということでございます。今後は十分定例日の日程がございますので、そういったことも踏まえた上で、地元調整を進めて、日程優先というばかりではいけないと思っておりますけれども、当然議会の御承認をいただかなければ、予算執行出来ないわけですから、しっかりとしていきたいと思っております。それと過去のことはたぶん、味間のことだと思っておりますけれども、味間については本当にいろんな変遷をしてきました。今回も、臨時議会までお世話になりましたので、8月30日に、議決をいただいた後にすぐに、設計業者を決める段取りをさせていただきますので、9月の中旬には、設計業者が決まり、そして、9月の下旬には、保護者の御意見を聞くという今お示ししているようなスケジュールで、きちんと私のほうでスケジュール管理をしながらやっていきたいと思っております。ただいまのお話のとおり、どういうことが起こってくるかわかりません。また、原油の高騰やウクライナの情勢等がある中ですが、現在確認している段階では、早期の発注であれば、資材が入らないということはないと市の担当部署のほうに確認をしておりますので、臨時議会をお世話になりましたので、この日程に沿いまして、今年度中に設計をきちんと上げさせていただきますので、来年の5月か6月に

なると思いますが、議会の際には、建築の上程ができるように、その後も、きちんと、業者等の工程管理もしながら、頑張っていきたいと思っております。ただ、最初から本当に厳しいスケジュールであり、今後どういった事態が起こるかわかりませんので、万が一開園がずれる場合の対応についても、十分検討もしていきたいというふうに考えております。スケジュールまでお示しさせてもらっておりますので、このスケジュールに沿って、こども未来部としてしっかり頑張っていきたいと思っております。

原田副座長 3000 数百万円の設計料ですけど、これ、地元等の業者さんで対応できる業者さんがいらっしゃるのかなというふうに単純に思ったのと、先ほどから出ておりますように、完成までの設置費用の契約は、もちろん大事ですけども、それと同じぐらい、地域内での経済の循環というのは大事なことだと思いますので、その辺のことに対するお考えも聞かせてもらえたらうれしいと思っております。

こども未来部 設計業務委託に関しましては、指名競争入札という形になってくるかと思っております。味間、たきこども園の例から申し上げますと、大きな設計になりますので、市内業者では対応出来ないというふうに判断をしております。例えば、たきこども園の設計業務委託の際の業者選定といたしまして、まず市の登録にあります 53 社を調査いたしました。そうした中でまず条件を定めました。対応できる場所というところで、設計事務所の規模がまず 4 人以上いらっしゃる場所、それから、保育教育施設の設計に対応できる、認定こども園保育園幼稚園の設計業務の実績が過去 5 年程度で 3 件以上ある、それから、面積的にも、1500 m²以上といったところの実績があるところで、絞りましてたきこども園のときでしたら、8 社の指名をさせていただきました。全て市外の業者になっております。恐らく今回の今田こども園に際しましても、似たような形で、指名業者を選んでいくという形になってくるかと思っております。

安井委員 今田のこども園なんですけども、たきこども園のような木材をいっぱい使ったような建物ができるというように思ってよろしいんですか。どのような建物ができるということを知る範囲で教えてほしいです。

こども未来部 現段階で木造であるとか鉄骨とかいうところまでは、私どもとして検

討はしておりません。今示している図面のとおり、保護者の皆さんからすると、子供たちが過ごすところは、イエローゾーンから外してほしいという御要望が強くございますので、設計段階でその部分を動かしていくというように考えております。子供たちにとっても保護者にとっても、地域にとっても1番いいのは木造かなと私は思いますけれども、そういう設計がまだこれからの段階ですし、保護者の意向もあります。それから、イエローゾーンに面する部分というところにもなりますので、その辺は、今後、木造を選択するのか、鉄骨を選択するのか、あるいは鉄骨を選択したとしても、味間認定こども園のような木質化のような園舎にしていきたいという思いですので今後、保護者の御意見を十分聞きながら、あるいは設計業者とも話をしながら、そしてやっぱり今田の特性というものもあると思いますので、そういったことも踏まえながら、設計については、取り組んでいきたいと考えています。

安井委員 わかりましたそういう形で進めていただけたらいいと思うんですけど、あと一つ気になってるのは入り口のところに送迎バスのスレート葺きのような建物があるんですけども、それは撤去されるんですかそれともそのまま活用されるんですか。出来たら、そのまま活用したほうがコストが下がっていいのかなと思うんですがいかがですか。

こども未来部 森のターミナルの出入口のあたりに通学通園バスの車庫がございます。こちらを今後もそのまま活用するのか、撤去していくのかということについては現在未定でございます。今後設計を考えていく中で、園舎の配置であったり、あるいは保護者送迎の動線であったり、駐車場といったものも十分に確保していく必要がございます。その設計をする中で、どうしても駐車場がやはり足りないということになれば、バスの車庫の撤去ということも検討せざるを得ないかもしれませんので、今後もう少し検討したいと考えております。

向井座長 先ほど財政課のときにも聞かせてもらった同じ質問なんですけれども、安井委員も少し言われましたが、森田課長補佐もお答えされていましたが、今の国の動きとしては、こども園化、そして民営化というのが大きな流れで、保護者のほうの子育てニーズにおいても、やはり多様な、保育施設ということで、例えば保護者の中には土日も預かってほしいとか、早朝預かってほしいとか、少し遅い時間も預かってほしいとか、また 3

歳児の1号認定で預かってほしいとか、多様なニーズをかなえられるのがこども園ではないかなと思うんですけれども、こども園を運営していくに当たっては、森田課長補佐から公立で3歳児の1号認定をやっているところが少ないと言われましたけれども、公立自体で、やっているとところがもうほとんどないという状態と思うんですけれども、そういう流れの中で丹波篠山市、結構オリジナルで動いているというような気がするんですけれども、今までの歴史もあるし、いっぺんに丹波篠山で民間の事業者が、こども園を運営していけるなんていうのは難しいし、これからは丹波篠山においては公立で運営していかざるを得ないところがあるのではないかなと思うんですが、その辺はどのように考えていますか。

こども未来部 先ほどの財政課のときにお話いただいた件だと思います。隣の丹波市はこども園は全部民間がされているというような状況ですが、丹波篠山市については、こども園については公立で、今回三つ目ということになります。改めて向井座長が言われました民間がする場合と公立がする場合等について、こども園の補助金等が、どれだけの差があるのかということで担当の森田のほうで調べまして、明らかに民間のほうが多くなっているような状況です。これは、国の動きとして、民間にできることは民間へというふうな流れの中でこうなったのだと思いますけれども、丹波篠山市において、民間のこども園は二つしかありません。しかも、地域が一定地域に偏っているという状況の中で、こども園を民間にということは不可能だと思いますし、恐らく、中山間地域については、そういう状況が多いのではないかなと思います。先般、社会福祉課のほうの福祉事務所の会議があるということで、その中の要望書の一つを見せていただいたときに、こども園化について、公立がする場合についても、民間並みに補助を増額してほしいという要望があり初めてそういうことを聞かせていただきました。多くの市町村がそういうことを思われているのだと思いますので、どういうふうに結びついていくかわかりませんが、民間がないところは公立でしていかなければならないと思いますので、国のほうに県を通じてということになると思いますけれども、そういった要望を上げていきたいと思います。ただすぐにはいかないかもしれませんが、福祉事務所の会議だけではなくて、あるいは市長会とか、そういったところの要望になるのかもしれないけれども、それぞれの市町の状況が異なると思いますので、そういったことも踏まえた上で、財源措置の要望をしていきたいと考えております。

【分科会】

■議員協議

議員間で議論・確認等をしておいた方がよいこと等があれば発言をお願いします。

—— 発言なし ——

■意向確認

日程第1 議案第41号 令和4年度丹波篠山市一般会計補正予算（第7号）

—— 修正・反対等の意見なし ——

向井座長 この結果と、本日の執行部との質疑応答及び議員共有を含めた形で、分科会の座長報告を行いたい。報告については座長に一任いただきたい。

—— 異議なし ——

向井座長 また会議録等については事務局に調整させ正副座長において内容確認を行いたい。

—— 異議なし ——

原田副座長 挨拶

向井座長 散会宣告

12：30 散会

